

第十四回句会 俳句

【高点句】

☆柿剥いて母にもありし恋心 〈きさ〉

☆子規訪へば句碑にあんパン青みかん 〈眞澄〉

☆意のままにならぬ水茎秋深む 〈静〉

【各自一句】

・手囲ひのトノサマバツタおとなしく 〈静〉

・お岩木の天辺見ゆる林檎かな 〈きさ〉

・大花野リフトの足を垂らしけり 〈眞澄〉

・一病を得たり一枝吾亦紅 〈千恵〉

・満月を真上にすえて松山城 〈童心〉

・一刷きの雲のみ秋の車山 〈明美〉

・干し柿や故郷の父の手の皺の 〈撫子〉

・三つ四つ数えつつ梨分くる子ら 〈安津子〉

・曼殊沙華春日の局慕ふ苑 〈一馬〉

・干し柿の出来映え語る義父(ちち)笑みて 〈青蛙〉

・口元に残る柿霜昼下がり 〈莫院〉

\*以上、33句(3句ずつ11名) より、選句は12名による

\*高点句は、高得点の句より3句(同点の句がある場合は、第三位の句迄)

\*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による